

<酒田特別支援学校の実践について>

レポートタイトル「作業学習（農芸）での花や野菜等の栽培」

1 実践にあたって

本校高等部では4つの班で毎日作業学習に取り組み、社会生活に向けた主体的に働く力を育てている。近年、生徒数は増加傾向にあり、一般就労希望の生徒から福祉就労希望の生徒まで多種多様な実態がある。作業量や作業種を確保するためコンテナを購入することで「できる状況づくり」を整備し、園芸活動を行った。

2 活動より

(1) 培養土の製作

生産性を高めるため生徒一人一人が担当する活動を明確にした。コンテナを購入し活用したことで作業効率が上がり、大量の製作が可能となった。



土ふるい



土混ぜ



培養土をコンテナに入れた状態

(2) コンテナを中心とした作業工程

農園芸では培養土の製作を中心に、寄せ植え作り、花の手入れ、袋詰めなど、様々な作業工程を生み出すことができた。また、コンテナを購入し「できる状況づくり」を整備したことで、自分が担当する仕事の大切さを理解しつつ協働の気持ちが育ったり、作業の流れが分かりやすくなったりして、黙々と作業に取り組む姿が以前より多く見られるようになった。

3 まとめ

大量の培養土製作が可能になったことで、活力あふれる学校づくりの一環として後援会員先や進路先等に寄せ植えを贈るなど、奉仕活動を体験することもできた。

<楯岡特別支援学校の実践について>

レポートタイトル「作業製品販売会に向けた製品作りの取組について～伝え合い、共に生きる力の具現化を目指して～」

1 実践にあたって

本校高等部の「作業学習」では、生徒の活動する意欲と根気を培い、将来の職業生活や社会自立を目指し、働く力を高めている。週3日3時間ずつ、学年オープン縦割り班編成（生徒の希望優先）で、五つの作業班（木工班・陶工班・園芸リサイクル班・家庭班・園芸クラフト班）に分かれ、1年間を通して共に活動を行っている。

本対象班である園芸リサイクル班では、ハーブ類を栽培して香料として加工したり、エコたわしや英字新聞などを利用したエコバッグの製作、空き缶の回収などを行ったりしている。実践事例として、下記2にあげた視点で授業作り（エコたわし作り）を行うことで生徒の変容を確認することができた。

2 活動より

(1) 生徒に応じた作業支援ツールを工夫する。

エコたわしを作るための治具を真鍮釘などにより、20台以上作成した。そのため、各生徒のペースに合わせて、作業を進めることができた。

(2) 視覚的、時間的、心理的、物理的などの構造化を図る。

エコたわし製作の写真入り手順表を作成し、完成品とも比較しながら安心して作製することができた。

(3) 働く喜びを実感できるようにする。

授業まとめの反省会では、お互いのがんばった点を共有し、次時への期待感になっている。また、校内・校外販売会で、すぐにも買ってもらう喜びを感じることで、さらに働く喜びをもつことができた。

(4) 職場に通用するソーシャルスキルを身に付けられるようにする。

教師からの一方的な指導ではなく、生徒同士が作業のやり方をお互いに教え合ったり、課題を話し合ったりする場面が多く見られるようになった。

3 まとめ

状況によって生徒の実態や作業内容が変化・変更するため、教師も共に活動しながら受容的な姿勢で関わっていきたい。また指導者（3名）がPDCAを意識しながら、個別及び全体の目標を達成できるように、共通理解や授業改善を図っていききたい。